

2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

経済学部「数学重視方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
経済学科・経済専攻	33	20	13

(2) 本入学試験の目的

昨今データ分析の必要性が社会において高くなってきました。加えて、2022年度よりスタートした高校の学習指導要領が変更され、「情報I」が必修化され、単純に知識を覚えるといった学習から、資料を元に情報を適切かつ効率よくまとめることを目指す探究型の学習への移行することとなりました。これらの情勢の変化を踏まえ、本学部のアドミッションポリシーに適した人材の入学を図るという目的で開発されたのが、ここに述べるAO入試(数学重視方式)です。

本入試の特徴は、AIを用いたatama+を使用し、出願資格において、経済学部で定めたデータ分析のために必要な数学能力(アドミッションポリシー(1)経済・社会の問題を分析するために必要な基礎学力に包含している。)を確認する点にあります。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

提出された「志望理由書①」、「同②」及び「出願者申告書」を審査しました。それらの具体的な内容は以下の通りです。

志望理由書①：あなたが経済学部経済学科経済専攻で入学後に学びたいテーマと、この入試を目指すに至った動機を含め、志望理由を800字程度で記載。

志望理由書②：経済に関連する事柄について、関心のあるものをテーマとして1つ選び、以下を合計800字程度で記載。

ア 上記のテーマを選んだ理由を示したうえで、その内容に関してデータをふまえながら具体的に説明。(図表添付などあり。)

イ その事柄に関するあなたの考えを論理的に説明。

出願者申告書：数学やデータ分析に関して興味や関心を持った背景を記載。また、これまでの学習について強調したい具体的な取り組みなどがあれば記載。

(2) 第2次選考

プレゼンテーションと個人面接を行いました。具体的な内容は以下の通りです。

プレゼンテーション：志望理由書の②で記した事柄について、作成したスライドをもとに、プレゼンテーションを5分程度で行っていただきました。

個人面接：以下の内容について個人面接を15分程度行いました。

- ・プレゼンテーションの内容に関する質疑
- ・出願書類(「志望理由書」・「出願者申告書」等)をもとに、志望動機、これまでの学習の取り組み、入学後に学びたいテーマ、経済学分野に関する興味・関心等について質疑。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

志望理由書①：経済学部経済学科経済専攻への志望動機の強さについて、データ分析に関連した形で何を本学経済学部で学習したいのかについて、経済社会への興味・関心の程度について、一

定の字数内での確に伝えられる文章力と論理力を確認することを意図しています。

志望理由書②：経済社会への興味・関心の確認とエビデンスに基づいた形で、論理的な文章作成能力を確認することを意図しています。

出願者申告書：数学やデータ分析に興味を有したきっかけやどの程度興味があるのかなどについて確認することを意図しています。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：志望理由書②に記載された自分なりの分析内容を限られた時間内で、エビデンスに基づいて論理的に自分の言葉で分かりやすく伝える力、コミュニケーション能力を確認することを意図しています。

個人面接：プレゼンテーションの内容について、どれだけ深く考察してきたかということと、内容の関連分野にまで目配りをしているのかということなどを確認することを意図しています。加えて、志望理由書①や出願者申告書での記載内容の再確認と、それらに記載された内容上の不明点を確認することを意図しています。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

志望理由書①：経済活動への関心を有することが明確に示されている事、本学の経済学部を志望しているという理由が明確である事、入学後どのような学習プランを有しているのかの具体性。

志望理由書②：分析したい内容に対して適切なデータの選択を行っているかどうか、データから導かれる結論に論理的飛躍はないかどうか、制限字数内で論理的に文章を構成できているかどうか。

出願者申告書：数学やデータ分析に興味を有したきっかけやどの程度興味があるのかということが、簡潔かつ明確に伝わる文章であるかどうか。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：制限時間内で、分析内容に対する問を示し、適宜データを用いて結論に至る論理をわかりやすく説明できているかどうか。

個人面接：面接官の質問について、的確にかつ簡潔に答えようと試みているのかどうか。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

志望理由書①：志願者のほとんどは、本学の経済学部を志望している理由はある程度明白でした。一方、入学後の学習プランについては、抽象的な内容に終始し、具体性に乏しいものが散見されました。

志望理由書②：問を立てる参考として、入学試験要項に参考資料等を提示しましたが、これらを使用した志願者は皆無でした。志願者は全員オリジナルな問いを立て分析していました。ただし、選択した問の分析に適切とは言えないデータが提示されているもの、データを用いずに牽強付会な結論を導出しているものも見られました。

出願者申告書：高校の正課での活動に限らず、中学時代の経験や課外での活動でのエピソードなどを交えてわかりやすく記載していた志願者がいた反面、単に算数が得意だった以上のものがなく興味をもったきっかけや取り組み内容などが不明瞭な記述にとどまった志願者も散見されました。

(2) 第2次選考

プレゼンテーション：出願者の多くが制限時間内(5分以内)でプレゼンテーションを終えられました。一部の学生が1分ほど超過していました。おおむね、適切なデータを用いて、考察内容が語られていました。しかし、一部「結論ありき」でデータから読み取れない内容のプレゼンテーションも散見されました。

個人面接：適切なデータを用いたプレゼンテーションにおいては、おおむね、プレゼンテーションの内容に関する質問についても、的確な回答が得られました。しかし、一部のプレゼンテーションにおいて、的確な回答を得られなかったものもありました。一方、数学やデータ分析に興味を持つきっかけとなった事柄については、質疑応答の中で、より理解が進んだ場合が存在しました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

名称変更

次年度から、出願資格に数学だけでなく、「情報I」の内容も加え、名称を「情報・数学重視方式」に変更する予定です。ご注意ください。

出願資格：先述した「情報I」追加と新課程に合わせて、学習単元を見直す予定です。ご注意ください。単元の学習については、毎日コツコツと学習することが肝要です。修得認定試験も一発合格する人はまれです。くじけずに取り組んでください。

第1次選考

志望理由書①：単に経済問題や経済学に興味があるというだけでなく、なぜ立命館大学経済学部を選択したのか？ということが分かるように、HPなどで本学部の特徴を踏まえて記載してください。どのようなことを学習したいのかについても、できるだけ具体的に記載することを心がけてください。

志望理由書②：何に着目してどのような問いを立てたのか？その問いを分析するのに、適切なデータは何か？分析結果を論理的に説明した文章になっているか？などを考えて、文章を作成してください。次年度からより精緻な記述が可能ないように制限字数を増やす予定です。頑張ってください。力作をお待ちしています。

出願者申告書：自分が趣味でプログラミングをしているとか、高校の正課での取り組みに限らず、データ分析や数学に関心のあることを記載してもらえればOKです。

第2次選考

プレゼンテーション：5分間の中で、志望理由書②に記載した内容のうち、何を話して、何をあえて話さないかとよく考えて、プレゼンテーションを構築してください。志望理由書には盛り込めなかったことでも、プレゼンテーションの質が向上するのであれば、必要と思えば付加してください。（現に、そのようなことを行った受験生はおられました。）

個人面接：プレゼンテーションの内容に関することについては、受験者本人が理解して発表しているかどうかを確かめます。無理に背伸びせずに、自分の言葉で説明できる内容に取り組んでください。加えて、志望理由書①や出願者申告書についての質問についても、等身大の自分を面接官に理解してもらえるような回答を心がけてください。

以上